

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：12201

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H03725

研究課題名(和文) 嫌悪とヘイトスピーチ：排斥行動の内的過程解明とその予防に資する基礎的研究

研究課題名(英文) Disgust and hate speech: exploring a model of psychological process of social exclusion

研究代表者

中村 真 (Nakamura, Makoto)

宇都宮大学・国際学部・教授

研究者番号：50231478

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究計画は、ヘイトスピーチや差別のような排斥行動の背景にある内的、心理的プロセスについて、とくに嫌悪感情との関係で解明し、その予防に資する提言に結びつけることを目的に行われた。個別の研究テーマとしては、嫌悪と関連感情に焦点を当てつつ、行動免疫、非人間化、進化心理学的背景、表情などと結び付けて、筋電図や身体反応の測定から、認知的評価、質問紙によるウェブ調査などを行った。研究成果は、年度ごとに複数の研究会、セミナー、シンポジウムを実施するとともに、日本感情心理学会機関誌のエモーション・スタディーズ誌に特集として公表した(特集：社会的共生と排斥行動：問題の所在)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ヘイトスピーチや差別に代表される排斥行動に関する心理学的研究では、これまで、主に社会心理学などによって集団行動の観点から多くの研究と分析が行われ、重要な知見が蓄積されているが、嫌悪感情に焦点を当てて個人内の心理的プロセスを解明しようとした研究はほとんどなく、この研究計画の成果として、排斥行動の心理的プロセスを説明するモデルの原型の解明に結び付けられたことは重要な学術的意義をもつ。さらに、研究成果は、毎年複数の研究会、セミナー、シンポジウムなどで公表するとともに、日本感情心理学会機関誌のエモーション・スタディーズ誌に特集として広く社会に公表している(特集：社会的共生と排斥行動：問題の所在)。

研究成果の概要(英文)：This research project aimed to elucidate the internal and psychological processes behind social exclusions such as hate speech and discrimination, especially in relation to disgust, and to tackle to the social issues. As individual research themes, focusing on disgust and related emotions, we studied in conjunction with behavioral immunity, dehumanization, evolutionary psychological background, facial expressions, etc. We conducted series of studies with the various methodologies such as facial EMGs, cognitive evaluations, and web surveys. The research results were reported in several conferences, seminars, and symposiums each year, and were published as a special feature in the Emotion Studies of the Japanese Society of Research on Emotions (Special feature: Social coexistence and exclusion).

研究分野：感情心理学

キーワード：嫌悪 感情 社会的排斥 ヘイトスピーチ 社会問題

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

ヘイトスピーチとは、人種、民族、国籍、ジェンダー、性指向性といった特徴に基づいて特定の集団に対する憎悪や嫌悪を表現し、さらにそうした感情を煽る行為であるが、当時、このような排斥行動が深刻化しつつあり、2014年には国連人種差別撤廃委員会が日本政府に働きかけるなど、国内外からこの問題への対応が強く求められている状況であり、今日でもその状況は続いている。

このような排斥行動は、集団間葛藤・紛争の文脈では、外集団認識の過程において形成される外集団への否定的態度と直接的に結びつくものと考えられ、先行研究では、社会的アイデンティティ理論に基づく社会的カテゴリー化や内集団バイアスのような集団過程の問題として取り上げられている(縄田, 2013)。また、ステレオタイプと偏見のような態度と、社会的認知における認知バイアスに焦点を当てた検討や、さらには、これらを組み合わせた検討も行われてきている。

一方、感情的側面から見ると、ヘイトスピーチの背景には明らかに根深い嫌悪感情がある。先行研究においても、その初期から、嫌悪や敵意のような感情の影響について言及がある(Allport, 1954)。しかし、個人の感情に焦点を絞り、その喚起状況から排斥行動にいたる個人内の心理的過程に着目した研究は十分に行われていない。とくに、嫌悪感情そのものについては、繰り返し排斥行動との関係を指摘されてはいるものの、十分に検討の対象とされてこなかった。嫌悪は基本感情の一つと考えられており、身体的・道徳的な汚染源との接触によって喚起され、対象の回避や排除を動機づけることが知られている。また、嫌悪は、軽蔑、敵意、恥などの社会的感情と関係していることが指摘されており、たとえば、嫌悪、軽蔑、敵意は、それぞれ、回避、排除、攻撃といった行動と関連していると考えられる。しかし、排斥行動の文脈では、これらの嫌悪関連感情と行動との関係、感情間関係については検討されていなかった。

また、嫌悪は対象の非人間化を促進することが指摘されている。非人間化とは、対象となる人物や集団の人間性を否定し、自分よりも低次の、動物のような存在だとみなす認知バイアスである。ある集団が準拠集団とは異質とみなされ、下位と見なされると、嫌悪や軽蔑の対象とされることが報告されており、結果的に、非人間化が生じやすくなり、種々のヘイト行為をはじめ、民族虐殺のような苛烈な外集団排斥につながる場合がある(Haslam, 2006)。

さらに、嫌悪が、食物や身体からの分泌物、動物性を想起させるものに対して生じる個体発達の初期の段階から、社会的事象である倫理や道徳に反する対象に対して生じる段階へと発展する道徳化のプロセスを有することが指摘されている。このプロセスは、社会がどのような規範を重視するかによって嫌悪の対象が決定されることを示唆しており、社会集団の状況によっては排斥行動が容認される可能性とも結びつく深刻な問題である。逆に、対象への嫌悪感を十分に制御できるならば、排斥行動は抑止され、交渉などによる建設的な葛藤解決にもつながると考えられる。

先行研究の課題と今後の多国籍化、多文化化した社会状況への対応を念頭に、本研究では、嫌悪とその関連感情に焦点を当て、個人内の心理的過程を分析することで、ヘイトスピーチなどの排斥行動の背景にある機序を解明し、その予防と抑止のための知見を得ることを目指した。また、集団過程、社会的認知等に関する先行研究の知見に、本研究によって得られた感情に関わる個人内の心理過程に関する知見を加えることにより、より包括的な問題の理解と対応案の検討に結びつけることとした。

2. 研究の目的

本研究は、ヘイトスピーチとその関連現象について、特に嫌悪感情に注目してその機序を明らかにし、対応策立案への貢献を目指すものである。近年、外国人マイノリティなどへのヘイトスピーチが繰り返されているが、その根底には、特定の出自を持つ集団や国家などに対する個人の嫌悪感情がある。今後、一層の多国籍化、多文化化が予想される日本社会の現実的課題として、マイノリティへの差別助長等、深刻な社会問題につながりかねない排斥行動を予防し、抑止するためにも、早急な対応が必要とされている。本研究では、嫌悪感情の喚起状況から、注意、評価過程を経て、排斥行動にいたる個人内の心理的過程の機序を解明することによって、集団過程等に注目した先行研究の知見を補い、より包括的な問題の理解と対応策立案への貢献を目的とした。

3. 研究の方法

ヘイトスピーチの背景にある個人内過程の機序を明らかにするため、嫌悪喚起状況から反応までを4段階に分けるとともに、排斥行動の予防と抑止に向けた対応策の検討を加え、次の5つの研究課題を設定した。(1) 注意過程における身体基盤(身体状態の変化)、ステレオタイプの影響、(2) 評価過程における道徳性と非人間化の影響、(3) 主観的体験における社会的感情間の関係、排斥行動容認の過程、(4) 表出行動としての表情の特徴、排斥行動と対人嫌悪の関係、(5) 排斥行動の予防と抑止における感情調整の有用性、を設定した。なお、排斥行動の予防と抑止に関しては、先行研究の知見を加味した総合的な対応策を検討し、成果を発信するために、研究会、シンポジウムを実施することとした。

4．研究成果

本研究では、ヘイトスピーチや差別のような排斥行動とその関連現象について、特に嫌悪感情に注目してその機序を明らかにし、対応策立案への貢献を目指した。個別の研究テーマとしては、嫌悪と関連感情に焦点を当てつつ、行動免疫、非人間化、進化論的背景、表情などの要因が、排斥行動の背景にある心理的プロセスとどのように関わっているかを解明し、予防策、対応策立案への提言に結びつけるように試みた。個々の研究成果は、論文や学会等における発表としてまとめるとともに、毎年研究会、セミナー、シンポジウムを企画し、実施することによって、公表し、共有するとともに、学会機関誌での特集として発信した。また、高校生を対象にした心理学講座を開催し、研究成果の一端を広く社会に発信した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 10件）

1. 著者名 Iwasa, K., Komatsu, T., Kitamura, A., & Sakamoto, Y.	4. 巻 11
2. 論文標題 Visual perception of moisture is a pathogen detection mechanism of the behavioral immune system.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Frontiers in Psychology	6. 最初と最後の頁 170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fpsyg.2020.00170.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 今田 純雄, 中村 真	4. 巻 4
2. 論文標題 社会的共生と排斥行動: 問題の所在	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 1-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.20797/ems.4.Si_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 今田 純雄	4. 巻 4
2. 論文標題 嫌悪感情の機能と役割 Paul Rozinの研究を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 39-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.20797/ems.4.Si_39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 岩佐 和典	4. 巻 4
2. 論文標題 行動免疫からみた特定集団への否定的態度	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 47-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.20797/ems.4.Si_47	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河野 和明	4. 巻 4
2. 論文標題 排斥の適応論と現代日本人の嫌悪対象集団について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エモーション・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 54-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.20797/ems.4.Si_54	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石川 隆行・中村 真・米山 正文・清水 奈名子・澤田 匡人	4. 巻 12
2. 論文標題 いじめ場面における中学生の行動と言語的援助要請スキル, 援助不安および共感性の関連	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 道徳性発達研究	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩佐 和典, 田中 恒彦, 山田 祐樹	4. 巻 89
2. 論文標題 日本語版嫌悪尺度 (DS-R-J) の因子構造, 信頼性, 妥当性の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 心理学研究	6. 最初と最後の頁 82-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) doi.org/10.4992/jjpsy.89.16230	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iwasa, K., Tanaka, T., & Yamada, Y.	4. 巻 11
2. 論文標題 Factor Structure, Reliability, and Validity of the Japanese Version of the Disgust Propensity and Sensitivity Scale-Revised.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 PLoS ONE	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0164630.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 河野和明・羽成隆司・伊藤君男	4. 巻 21
2. 論文標題 嫌悪対象者に対する援助傾向 - 援助を抑制する要因は何か -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 東海学園大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 123-129
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村真・清水奈名子・米山正文	4. 巻 43
2. 論文標題 「排斥的行動」に対応するための異分野融合研究の可能性 - 共感の反社会性を踏まえた教育モデル構築に向けた試論 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 宇都宮大学国際学部研究論集	6. 最初と最後の頁 63-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計35件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 中村真
2. 発表標題 指定討論：正義(厚生、道徳、モラル・・・) = 感情？
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会公募シンポジウム73「正義をめぐる二つのアプローチ：哲学と心理学(2)」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村真
2. 発表標題 感情研究の広がり：学際研究・融合研究の意義
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会公募シンポジウム5「感情研究の広がり」と深さ」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村真・河野和明
2. 発表標題 嫌悪と排斥行動のモデル：対応策立案に向けた検討
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会公募シンポジウム34「嫌悪と排斥行動：道徳性との関連と問題への対応」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩佐和典
2. 発表標題 非人間化と行動免疫からみた社会的排斥への対応
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会公募シンポジウム34「嫌悪と排斥行動：道徳性との関連と問題への対応」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村真
2. 発表標題 感情心理学：共感することはよいことか
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム『高校生のための心理学講座』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野和明
2. 発表標題 進化心理学：排斥行動は適応的？
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム『高校生のための心理学講座』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 今田純雄
2. 発表標題 基礎心理学：食べ物を嫌うことと排斥
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム『高校生のための心理学講座』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩佐和典
2. 発表標題 臨床心理学：防御反応としての排斥
3. 学会等名 日本心理学会公開シンポジウム『高校生のための心理学講座』
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nakamura, M., Furumitsu, I., Kawano, K., Iwasa, K., and Imada, S.
2. 発表標題 Core disgust versus moral disgust: Preliminary examinations of posed expressions of emotion in the hypothetical situations evoking disgust with Japanese samples
3. 学会等名 European Philosophical Society for the Study of Emotions 6th Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中村真
2. 発表標題 倫理問題へ対応することと倫理を研究すること
3. 学会等名 日本感情心理学会第26回大会シンポジウム2 倫理で感情研究を豊かにする 指定討論(東洋大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川 隆行 ・ 中村 真 ・ 米山 正文 ・ 清水 奈名子 ・ 澤田 匡人
2. 発表標題 小学生のいじめ場面における罪悪感と被害者援助行動の関連について
3. 学会等名 日本発達心理学会第30回大会（早稲田大学）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩佐和典、小松孝徳
2. 発表標題 行動免疫からみた視覚的濡れ感の心理物理学的基盤 一対比較法による再現実験
3. 学会等名 日本感情心理学会第26回大会（東洋大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩佐和典・坂元優太
2. 発表標題 行動免疫からみた特定集団成員への嫌悪的評価の獲得と変容
3. 学会等名 日本心理学会第82回大会（仙台国際センター）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩佐和典
2. 発表標題 行動免疫による社会的排斥の促進
3. 学会等名 第13回日本感情心理学会セミナー「社会的共生と排斥行動 I：排斥行動の心理過程を説明する」(福岡大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩佐和典・小松孝徳
2. 発表標題 気持ち悪い視覚的質感の研究 行動免疫からみた湿り気・ヌメリ・ベタツキ
3. 学会等名 質感のつどい第3回公開フォーラム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 荒井崇史・岩佐和典
2. 発表標題 道徳的嫌悪感と攻撃性との関連 三領域嫌悪感尺度の信頼性と妥当性の検討を通して
3. 学会等名 日本心理学会第81回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩佐和典
2. 発表標題 行動免疫と非人間化からみた外集団への排斥的態度
3. 学会等名 第12回日本感情心理学会セミナー「社会的共生と排斥行動II：嫌悪はなぜ拡散するか？」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野和明
2. 発表標題 排斥の適応論と現代日本人のヘイト対象について
3. 学会等名 第12回日本感情心理学会セミナー「社会的共生と排斥行動II：嫌悪はなぜ拡散するか？」
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Nakamura, M., Shimizu, N., & Yoneyama, M.
2. 発表標題 Interdisciplinary Research on Responding to Acts of Social Exclusion
3. 学会等名 4th Annual Conference of European philosophical society for the study of emotions (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 岩佐和典
2. 発表標題 飲みたくないのはどんな色の飲み物か
3. 学会等名 日本感情心理学会第24回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Iwasa, K., & Komatsu, T.
2. 発表標題 Luminance distribution statistics influence visual moisture evaluation of 3D rendered materials
3. 学会等名 International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野和明・羽成隆司・伊藤君男
2. 発表標題 対象者への嫌悪と資源認知はどのように援助傾向を制御するか.
3. 学会等名 日本感情心理学会第24回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kazuaki Kawano, Takashi Hanari, & Kimio Ito
2. 発表標題 Psychopathic tendency, fantasy of homicide or injury, and like/dislike emotions for others: A correlational study.
3. 学会等名 The 2017 Hawaii International Conference on Arts and Humanities. (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 今田純雄
2. 発表標題 人はなぜ嫌悪するのか：嫌悪研究の過去，現状，発展
3. 学会等名 第10回日本感情心理学会セミナー「社会的共生と排斥行動：嫌悪感情とヘイトスピーチ」（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 河野和明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 朝倉書店	5. 総ページ数 -
3. 書名 進化で見る人間行動の事典（小田亮ら・編）	

1. 著者名 中村真ら（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 北大路書房	5. 総ページ数 458
3. 書名 感情心理学ハンドブック	

1. 著者名 今田純雄・中村真・古満伊里	4. 発行年 2018年
2. 出版社 培風館	5. 総ページ数 185
3. 書名 感情心理学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岩佐 和典 (Iwasa Kazunori) (00610031)	就実大学・教育学部・准教授 (35307)	
研究分担者	河野 和明 (Kawano Kazuaki) (30271381)	東海学園大学・心理学部・教授 (33929)	
研究分担者	今田 純雄 (Imada Sumio) (90193672)	広島修道大学・健康科学部・教授 (35404)	